

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270201981		
法人名	社会福祉法人 七峰会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	〒036-8255 青森県弘前市若葉2丁目15		
自己評価作成日	令和 4年 8月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年9月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>毎日の生活が楽しめるようレクリエーションを盛り込んだ活動や、一人ひとりの状態に合わせ機能訓練ができるよう機能訓練士と連携した運動の提案、認知症緩和活動を毎日一人ひとりの能力に合わせて実施している。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>同一敷地内にはデイサービスセンターや有料老人ホームが併設し、職員間の協力体制が得られている。地域包括支援センター・町会長・民生委員等、地域との情報交換や連携も密に行われている。利用者全員が週3回のペースで入浴できる体制を整え、本人の希望に沿った入浴支援に取り組むとともに、「おむつを使用しない暮らし」により、利用者の生きる意欲や自信の回復へと繋げている。さらには、「身体拘束廃止に向けた自己チェック表」による点検を全職員が実施する等、身体拘束をしないケアに対する意識も高い。重度化した際は、関連法人の特別養護老人ホームへ住み替えできる体制も整えられている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室と各ユニットに掲示している。毎日、朝の申し送り時、暗唱していることで共有ができ意識することが出来ている。	理念は事務室・各ユニット等に掲示されている。毎朝の申し送り時に暗唱し、事業所内の研修によっても共有している。地域密着型サービスの意義や役割を考え、理念がケアに反映されているかを立ち返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ア:地域の行事である夏祭りや敬老会、旅行、餅つき大会、体操教室等に利用者様と一緒に参加している。コミュニティカフェわかばに参加された方々との交流も深めていた、現在コロナ禍であり実施できていないが電話での情報交換や、定期的な報告で交流をしている。いつでも実施できるよう情報交換を行っている。	コロナ禍のため行事・外出等は自粛しているが、町会長や民生委員との繋がりを通し、事業所内の日常を電話連絡にて情報発信している。自作の漬物を持参する近隣住民との関わりを継続し、日常的な繋がりを維持しようと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事やコミュニティカフェわかばで認知症に関連する内容を講義し参加してもらうことで理解を深めて頂いていた。広報紙を使用し、認知症について理解をして頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、運営推進会議が開催できないが、電話での情報交換や、施設での活動報告を文章で関係者の皆様へ報告している。	コロナ禍のため会議は自粛している。代替えとして2か月毎に家族や地域包括支援センター等へ文章による書面を送付し、利用者サービスの実際について、情報共有を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響により、必要に応じてお互いに電話で連絡を取り合っている。施設での活動を広報誌で知らせるなど、継続し関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ禍のため対面による連携機会は少ない。困りごとが生じた際は、市役所の担当職員へ電話相談を行い、協力関係を築いている。「コロナ禍に伴う運営基準の緩和」について相談した経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を新たに作成している。グループホーム内での研修を実施している。身体拘束対策委員会を設置し3か月に1回会議を実施している。身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。夜間以外に施錠をしていない。	3か月毎に「身体拘束対策委員会」を開催し、スピーチロックを含む「身体拘束に繋がりうる事例」について話し合いが行われている。毎月「身体拘束廃止に向けた自己チェック表」による点検を全職員が実施する等、身体拘束をしないケアに対する意識は高い事業所である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内での研修を実施し虐待について学習している。虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内での研修で学ぶ機会を持ち理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容、重要事項説明書の内容を説明している。納得を得て契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にはこちらから近況を報告し意見等を聞いている。玄関には意見箱を置いている。	コロナ禍においても窓越しで面会可能である。いつでも気軽に面会できるようにと、事前予約せずとも対応している。利用者との対話や日頃の気付きに加え、面会や電話連絡などを通じて、家族との意見交換も随時行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き継ぎや午後のミーティング、グループホーム会議等で意見や提案を聞く機会があり意見を交換し反映させている。	月1回毎に「グループホーム会議」を行い、管理者と職員が意見交換を行っている。勤務体制や必要な物品の購入について等、職員からの意見や提案が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握し努力を認め遣り甲斐や向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や経験等を把握し研修の機会を設けている。また受けたい研修については申し出をし研修を受ける機会を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の施設との交流の機会を持ち、また実習生の受け入れをし活動を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。、現在コロナ禍であり実施できていないが電話での情報交換や、定期的な報告で交流をしている。いつでも実施できるよう情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から本人が困っていることや不安なこと等、要望を聞くようにしている。生活の中での様子を観察し安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から御家族様が困っていることや不安に思っていることを聞くようにし情報収集している。関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で本人と御家族様にその時必要な支援を見極め確認している。職員間で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する側にならず掃除や洗濯干し、洗濯たたみを一緒に行っている。食事の準備や片付けも一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルスの影響により、面会の機会が減っている為、受診や状態変化などについてもこまめに電話で連絡をしている。お互いに相談をしながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居前から通っていた病院や美容院に出かけ、これまでの馴染みの方との関係が継続できるようにしている。	コロナ禍のため積極的な外出支援は自粛しているが、昔から利用している美容室に出かける等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、会話や活動ができるように配慮している。手伝いを一緒に行ったり教え合う場面が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を大切にし、必要に応じ他の施設への住み替えへの相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや希望を丁寧に聞き取り、納得のいくようにと努めている。普段から表情の観察をし、意思表示の困難な方も本人本位になるよう検討している。	言語によるコミュニケーションを主としながらも、表情や仕草から思いを汲み取り、本人の意向に沿ったケアの実践に繋げている。介護システムを活用することで、効率的に情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族様より、これまでの生活について聞き取りをしている。普段の会話でも回想したり一人ひとりの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで、一人ひとりの状態を確認している。活動等は一人ひとりの状態に合わせ支援できるように職員間で情報共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族様の意向を確認をし主治医や看護師からの助言も含め職員間で意見交換し、それを反映させた介護計画を作成している。	3カ月毎に行われるモニタリング結果をもとにカンファレンスを実施し、職員間の情報共有を行っている。介護職のみならず、医師や看護師等、医療職からの助言や指導についても介護計画へ反映している。	医師や看護師からの助言や指導を「サービス担当者会議の要点」に記載し、チーム(多職種)で情報共有することが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子や気づき等を記録し職員間で情報を共有している。状態の変化等により課題が上がった時には介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様と相談しながら状況に応じて受診、外出、活動等一人ひとりに必要な支援をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方や民生委員の方との関係作りに努めている。町会の行事には参加し本人が楽しむことができるよう支援している。、現在コロナ禍であり行事は少ないが情報交換や、定期的な報告で交流をしている。いつでも実施できるよう情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族様の希望を確認し、かかりつけ医との関係を大切に受診を支援をしている。	入居前からの「かかりつけ医」を継続して受診できる体制である。受診の送迎はすべて職員が対応し、家族に対する受診前後の連絡・報告が密に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には日常の情報を定期的に伝えている。相談をしたり受診の報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には御家族様や病院関係者と安心して治療が出来るように、また早期退院出来るよう情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居時に事業所で出来る事を説明している。状態の変化等は都度、御家族様へ報告している。	これまで看取りの事例は1度もないが、法人の方針として、重度化した際は関連法人の特別養護老人ホームへ住み替えすることを提案している。入居時の重要事項説明書にて家族へ事前説明を行い、理解を得ている。	実践状況の記載内容と実情が異なっている。実情に合わせ、実践状況の記載内容を変更することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを基に内部研修を実施している。また、事故の後には原因と対策を検討し事故防止に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に内部研修を実施している。年2回の避難訓練では町会の方にも参加していただき協力体制を築いている。、現在コロナ禍であり実施できていないが電話での情報交換や、定期的な報告で交流をしている。いつでも実施できるよう情報交換を行っている。	コロナ禍により地域住民の参加や協力は得られずも、夜間想定を含めた年2回の避難訓練は実施している。同一敷地内にあるデイサービスセンターや有料老人ホーム等の職員と協力体制が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を把握し表情や言動を観察しながら、誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いや対応に配慮している。	誇りやプライバシーを損ねるような不適切な言動・対応となっていないか、日常的に確認し合っている。排泄・入浴において、同性介護を望む利用者については、個別で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がやりたい事、外出したい場所等をいつでも話せるような環境作りに努めている。会話の中でも希望を話せるよう、職員が穏やかな表情で対応する様配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし自己決定出来る環境を作り、その日の過ごしたい希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに配慮し、ご本人様が笑顔で過ごせるような洋服の選択が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の準備や片付けを職員と一緒にしている。利用者様の好みを把握し職員と一緒に食事を作る機会を月2回設けている。	副食は併設するデイサービスセンターの厨房で調理されているが、ご飯とみそ汁をユニット内で準備している。月2回の「食事作り」では希望のメニューを伺い、利用者と一緒に調理するなど、食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には法人施設の管理栄養士が立てた献立の提供をしている。食事摂取量や水分摂取量の把握をし一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせての口腔ケアをしている。歯科医師より毎月助言を受け助言内容を確認して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し失敗を減らせるよう支援をしている。尿取りパッドは使用しているが、おむつは使用していない。トイレで排泄が出来るよう支援している。	「チェック表」により個々の排泄パターンを把握し、すべての利用者がトイレで排泄できるケアを実現している。「おむつを使用しない暮らし」により、利用者の生きる意欲や自信の回復へと繋げている。排泄の自立支援に向けた意識は高くある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力排便の取り組みとして起床時、冷水を提供している。個々に合わせた運動や水分摂取状況を把握し、排便リズムを整えるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴を楽しむことが出来るようタイミング等に配慮している。希望に合わせて時間帯も工夫している。	利用者全員が週3回のペースで入浴できるよう、勤務体制や業務分担を工夫している。本人から希望の日や時間帯を伺い、一人ひとりに合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に合わせて休みたい時に静養時間を設けている。一人ひとりの生活習慣や状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師から説明を受け服薬による状態の変化等の報告や説明をしている。変更があった際は薬の説明書を見て再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し持っている力を活かせるよう役割や趣味活動への支援をしている。散歩を日課とし、日々外の空気や景色を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染予防対策をしっかりと行い、希望に出来るだけ沿って外出計画を立て出掛けしている。	「道の駅までのドライブ」「近隣の散歩」「敷地内によるプランター菜園」等を通し、利用者が事業所内だけで過ごさずに、外出できる支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や御家族様と相談しながら一人ひとりの希望や能力に応じて少量のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様へ手紙を書いたり、希望時電話で会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ち温度・湿度は調整し不快や混乱をまねかないよう配慮している。季節感を感じられるようホールや廊下には季節に合った作品を装飾している。	コロナ禍における感染症対策を講じながら温度・湿度の調整が実践され、居心地の良い共用空間である。ユニット内・廊下・玄関には、季節を感じる事ができる作品・装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話を楽しんだり一緒に活動に参加している。独りで趣味活動を行う利用者様もおられる為居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や御家族様と相談し馴染みのある物を置き本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	本人・家族と事前に相談し、好みの物を伺っている。写真・位牌など、本人にとって馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫・配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には文字で表示をし居室には本人がわかるような目印を付けたりしている。安全に移動が出来るよう物の配置に配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容